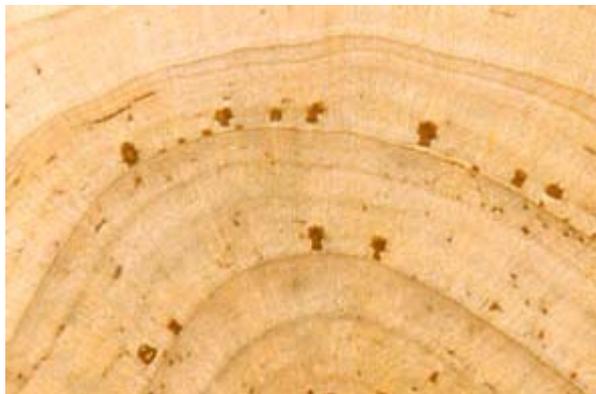


ミノドヒラタモグリガ

シラカンバやダケカンバの材の横断面に小さな丸い褐色の斑点がある。最大径約1.5mm。縦断面では細い筋として現れる。シラカンバ材内に普通にみられ、ピスフレックと呼ばれる。材の随から4cmまでの間に発生するので、この部分を利用しなければ問題はない。



1. ピスフレック。1990/2/5。芦別市，シラカンバ。



2. 幼虫の穿孔痕。1990/6/4。

新得町，シラカンバ樹皮下。



3. 雄成虫，5mm。1990/7/21/AM10:00。

新得町，シラカンバ葉上。



4. 幼虫。1990/6/4。新得町，シラカンバ樹皮下。

【学名】 *Opostegoides minodensis*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) ， ヒラタモグリガ科 (Opostegidae)

【分布】 北海道，本州；ロシア。

【特徴】

成虫は白色，体長5mm。

幼虫はとても細長く，透明感の強い白色，終齢で体長20mm。胸脚，腹脚はない。頭部には1対の褐色の縦筋（硬化の強い部分）がある。ピスフレックの横断面は不整円形，直径0.1～1.3mm，大きなものは春材部に現われる。

シラカンバではカバノモグリバエのピスフレックもよくみられる。カバノモグリバエのピスフレックは地際近くに集中し，材の

横断面では年輪に沿った細長い形をしている。

【生態】

シラカンバやダケカンバに寄生する。ウダイカンバでの発生は観察していない。

成虫は7月に出現し、日中は下草などの葉上でじっとしている。卵は葉裏に1個ずつ産み付けられる。幼虫は8月頃に孵化、葉内を潜って枝に侵入する。幼虫は形成層やその周囲を食べながら、枝や幹の基部に向かい1mほど直進し、ついで細長い楕円（長計10～20cm）を4～5回描きながら潜孔する。6月下旬～7月上旬に樹皮に穴をあけ、地面に落下し繭を作って蛹になる。幼虫越冬。

【被害】

ピスフレックは材に汚れた感じを与えるが、材の強度にはほとんど影響がないという。ミノドヒラタモグリガのピスフレックは樹幹では地際から先端まで見られ、随から4cmまでの間に集中して発生する。この部分を除去すればよい。一方、ピスフレックは特異な外観を呈することから工芸的利用の可能性が示唆されている。

【文献】

1958. 山林暹. 木材組織学. 森北出版, 東京.

1983. 田中潔, 松崎清一. ダケカンバ材のピスフレック. 日本林学会誌, 65: 262-267.

1984. 久万田敏夫. 広葉樹のピスフレック形成昆虫. 北方林業, 36: 120-129.

*1990. 原秀穂, 矢萩利雄. シラカンバのピスフレック. 北方林業, 42: 219-224.

1990. 原秀穂, 矢萩利雄, シラカンバの形成層潜孔虫ミノドヒラタモグリガの産卵部位および幼虫の潜孔習性について. 日本応用動物昆虫学会誌, 34: 283-287.

1990. 矢萩利雄, 原秀穂. シラカンバにおける形成層潜孔虫ミノドヒラタモグリガによるピスフレックの発生部位. 日本林学会誌, 72: 508-512.

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ミノドヒラタモグリガ shogarui/minodohi/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991/3/17.

pithf.jpg, senko.jpg, seichu.jpg, yochu.jpg

「写真1～4」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1990.